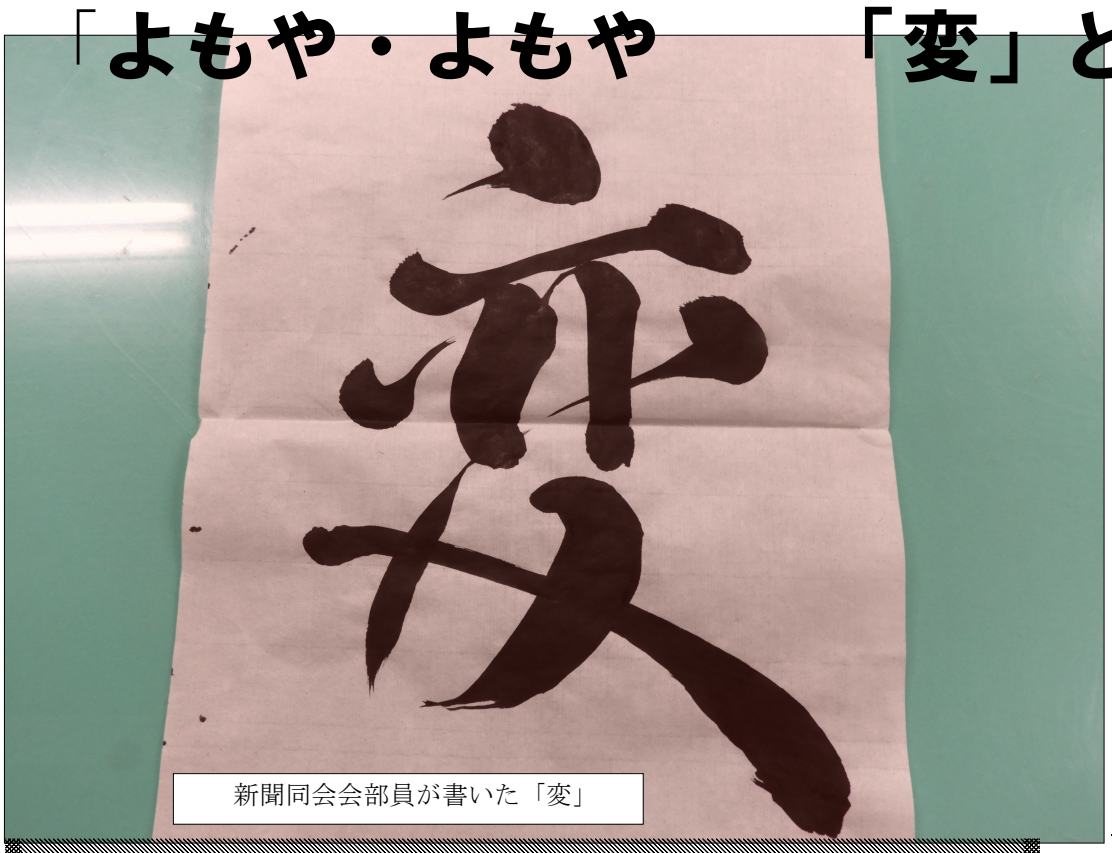
「よもや・よもや　「変」とは」



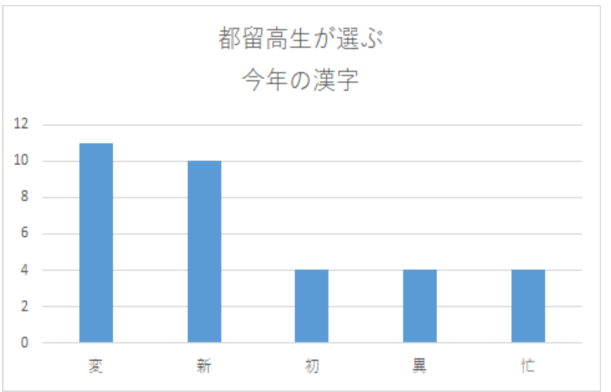
新聞同会会部員が書いた「変」

都留高ニュース

発行所
山梨県立
都留高等学校
大月市
大月２丁目11-20
編集
都留高新聞同好会

今年の都留高をあらわす漢字は？

今年の流行語大賞は「3密」、今年の漢字は「密」とどちらもコロナウイルス関係の暗い言葉になりました。では都留高を表す漢字は何なのか？都留高生１００名にアンケート調査しました。



今年の都留高の漢字

皆さんの考える都留高校の今年の漢字は何だったのでしょうか？。１～３年生の計１０１人にアンケートを実施しました。

◇１年生（４０名）
1位 **新**
新しいことが多かったから
2位 **変**
新しい生活様式など例年と変わったから

◇２年生（２５名）
1位 **変**
様々なことが変わったから
2位 **新**
新しいことが多かったから

◇３年生　（３６名）
1位 **変**
入試の変化など、様々な変化があり、対応することが求められたから
2位 **耐**
自粛などが多くて我慢したから

◇全体
1位 変（11名）
2位 新（10名）
3位 初、異、忙（４名）
都留高全体でもコロナウイルス関係の文字がとても多かったです。どの学年にも共通して出てくる漢字は「変」でした。３年生には入試の大きな変化があったから、という理由があり、まさに今年の３年生を象徴する漢字だと思います。

来年は今年よりも明るくて楽しい話題や言葉が飛び交う年になるといいですね。それではみなさん、良いお年を、、、。

今、注目の人　加々美　千冬先生

加々美千冬2年次主任

コロナウイルスの影響で修学旅行が延期となり、様々な変化があった２年次の主任の加賀美千冬先生にお話を伺った。

Q１．コロナ禍で最も大変だったことは何ですか。
Ａ１．行事が全て今まで通りにいかなくて、全て手探りの状態だったことと、日々変わる状況を考えながら変えていくことが大変でした。またコロナの影響で精神的に不安になった生徒のケアやリモート授業などもありました。

Q２．コロナ禍でできて良かったことを教えてください。
Ａ２．世間が色んなことに過敏になっているので「思いやりを持って人に接しよう」と２年生には話しました。コロナではなかったら、きっとそういう話はしなかったと思います。こんな状況だからこそ助け合っていかなきゃいけないので。

Q３．修学旅行についてお話をお願いします。
Ａ３．大きな変化は行き先が沖縄から関西方面に変更になったことです。だから少しでも２年生を元気づけたくてＵＳＪに行くことにしました。先生方と話し合う中で大切にしたことは、やはり感染症対策です。バスの台数を増やしたり、ガイドラインを作って保護者の方に配ったりしました。２年生の皆さんには修学旅行に行かせてあげたい気持ちでいっぱいですが、これから何が起こるか分かりません。なので楽しみにしつつ、状況を冷静にみる目を持って欲しいと思います。行くことが出来たときは、気をつけながら思いっきり楽しんでくださいね。

Q４．来年は受験生になる２年生の皆さんにメッセージをお願いします。
Ａ４．受験は人生の方向を決める門出でもあります。今は大変ですが、コロナ禍が終わればきっと素晴らしい時代になると思います。これを勉強と呼ぶには厳しすぎるかもしれませんが、これも乗り越えるべき壁です。精一杯受験を頑張りましょう。そのために私達がサポートします。

自学進取

新型コロナの猛威がすさまじい。医療崩壊もまじかになってきた観がある。国のリーダーたちも経済をとるか、医療をとるか、悩ましいところだろう。どっちをとっても批判されることにはなるのだろう。関心のあるところで本村凌二『独裁の世界史』（ＮＨＫ出版）を読んだ。これまでの歴史の中では数々の独裁者があらわれ、そして忌み嫌われていった。しかしその独裁者が歴史から消えないのはなぜなのか、を読みとく内容だ。中国のコロナ対応をみると「独裁にはメリットがあります。意思決定は議会制民主主義のそと比べれば格段に早く、超法規的な措置をとれば『自粛要請』など必要ありません。個人の自由を制限してでも感染の拡大を防ぐ。その点において、独裁者をいただく国家が、スピードと徹底の度合いにおいて有利であることは否定できません」ということになる。対応の遅れが、逆に強いリーダーシップを国民が求めるようになってきたのがこれまでの歴史だ。「よもや。よもや」日本が独裁国家になることはないでしょうがね。コロナが早く収束することをただ願うばかり。

大学訪問

東京都立大学

これから先、求められている人材は大きく変わってきている。そのような世の中で、大学での学びはどうあるべきか。東京都立大学訪問を通じて感じたことをまとめてみたい。

ＡＩなどの技術が進化している今、先日、ＳＡのキャリアプロジェクトの一環として、東京都立大学へ訪れてきた。大学とはどういうところか、高校生のうちにしておいたほうが良いこと、など様々なお話を伺ってきた。特に印象に残ったことは、講師の方が「大学とは、答えが出ない問題を見極める場、学び方を学ぶ場、人間の幅を広げる場だ。」と仰っていたことだ。

大学はただ学ぶためだけにあると考えていたため、大学に対しての見方が大きく変わった瞬間だった。

また、積極性を鍛えるために対話型講義にも力を入れている。高校のようなただ聞いているだけの授業ではなく、グループディスカッションの時間を設けて生徒自ら意見を持ち、講義に主体的に参加できるようにしている。

積極性や主体性はこれからの社会で必要となってくる力になる。これらの力は今からでも養っておくべきだろう。

大学生のチューターからのお話を伺った。

「何よりも大事なのは高校生のうちに、『好きなことを見つけること』だという。大学では、興味があるものについて深く学んでいくため、好きな事を見つけないと学びが深めることができない。」

たった四年間ではあるが、大学で得た知識や経験は必ず、これからの社会で役に立つものとなる。自分は何を大学で学びたいのか、一度自分自身と向き合ってみるのもいいだろう。

東京都立大学にて＝12月1日

部活訪問

コロナ禍の中で試行錯誤

茶道部

Q１、普段の活動を教えてください。

Ａ１、週に１回か２回ほど外部の講師の方が来てくださり、みんなでお茶をたてています。お茶をたてることで、気持ちの落ち着かせ方や礼儀作法を学ぶことが出来ます。

Q２、コロナ禍で活動が制限されて困ったこと、苦労したことを教えて下さい。

Ａ２、向き合ってお菓子を食べることが出来なくなったので、交流が減ってしまったことです。コロナ対策としては検温や消毒を行いました。また、芸文祭では県内での茶道部が集まってお茶会をする予定でしたが、コロナの影響で無くなってしまい、さらに交流が減ってしまったと思います。

Q３、これからの活動を教えてください。

Ａ３、１月に校内文化局発表があるので、それに向けて準備をしていきたいです。コロナ対策のため２回に分けてお茶会を開きます。先生も生徒のみなさんも、お茶やお菓子が好きな人は誰でも来て欲しいです。

佐藤天音　茶道部部長

囲碁将棋部

Q１、普段の活動を教えてください。

Ａ１．日々、将棋の鍛錬をし、いろんな手を試して強くなるように頑張っています。戦況を素早く判断しなくてはならないので、洞察力が鍛えられて先を見通す力もつくと思います。また、集中力もつくので勉強にも役立っています。

Q２、コロナ禍で活動が制限されて困ったこと、苦労したことを教えてください。

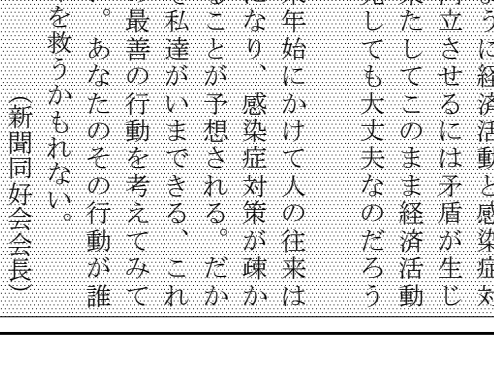
Ａ２、将棋や囲碁は駒を入れ替えるので消毒をたくさん行ったことです。また大会も人数の制限があり、困りました。マスクをしていますが、どうしても対局の最中は接触があるので怖いですね。

Q３、これからの活動を教えてください。

Ａ３、１月の校内文化局発表では自由対局、詰め将棋、クイズなどをしたいと思います。初心者の方から腕に自信がある人も、ぜひ来てください。また囲碁や将棋と聞くと難しいイメージを持つ人が多いと思いますが、やるととても楽しいので、多くの人に面白さを広めていきたいです。藤井聡太さんの影響で将棋ブームが来ていると思うので、もっと部員を集めたいです。

※ここで１つクイズです。将棋には王将と玉将がありますが、玉将をつくった歴史上の有名な人物は誰でしょう？

（正解は文化局発表会場で！）


古家有真　囲碁将棋部長

ひとりの高校生が今、思うこと

２０２０年、あるウイルスが世界を変えてしまった。２０１９年12月に中国で発生したとされるコロナウイルスは誰も予想していなかった大きな変化をもたらした。突然の緊急事態宣言、約２ヶ月間の休校、マスクが当たり前の新しい生活様式、オリンピックの延期。そして２０２０年12月現在、コロナウイルスの脅威は収まるどころか第３波が到来し、東京の感染者は６００人を超え、全国でも３０００人を突破した。このため医療現場は崩壊寸前、医療従事者は悲鳴をあげている。それにも関わらず、政府の経済政策である「Go Toキャンペーン」は止まらなかった。この政策に対する予算はいくらか知っているだろうか。総予算は１兆６７９４億円（令和２年度　国土交通省関連　補正予算案より）。とても想像できない額である。この予算で何人の生活費が賄えるのだろうか、どれほどの医療物資が提供できただろうか。一方、飲食店もコロナの影響で収入が厳しい状況だ。だが来店するお客さんが感染してしまったら元も子もない。確かに経済活動は大切だ。だが、それ以上に命が一番大切であり、替えられるものはない。経済を活発化させるには人の往来は不可欠であり、感染拡大を防ぐには多少の自粛は不可欠である。このように経済活動と感染症対策を両立させるには矛盾が生じる。果たしてこのまま経済活動を優先しても大丈夫なのだろうか。

年末年始にかけて人の往来は活発になり、感染症対策が疎かになることが予想される。だからこそ私達がいまできる、これからの最善の行動を考えてみて欲しい。あなたのその行動が誰かの命を救うかもしれない。

（新聞同好会会長）

感謝：都留高校新聞同会は県芸術文化祭にて優秀賞をいただき、来年度わかやま総文祭に出場する権利をえました。これも皆さま方のご協力のおかげです。感謝申し上げます。

取材・広告希望の方は新聞同好会の部員または顧問まで